

最近の肝臓病に関する医療情報(2025.9.18)

最近の各種メディアの記事から肝臓病に関する話題を紹介します。

1. ブリストル マイヤーズ スクイブ、欧州委員会より切除不能または進行肝細胞がん成人患者のファーストライン治療としてオプジーボとヤーボイの併用療法の承認を取得【プレス発表】

ブリストル マイヤーズ スクイブは、欧州委員会より切除不能または進行肝細胞がん成人患者のファーストライン治療としてオプジーボとヤーボイの併用療法の承認を取得したと発表しました。オプジーボ（ニボルマブ）とヤーボイ（イピリムマブ）の併用療法は、日本でも既に小野薬品工業が承認申請済みです。（2024年8月）

先日の医療後援会（打田先生）でもお話があり、この夏にも日本で承認される見通しのことです。また、この併用療法に関する論文が数多く出てきています。

これらの論文を見る限り、かなり効果はあるようです。

URL: <https://www.bms.com/jp/media/press-release-listing/press-release-listing-2025/20250312.html>

出典：ブリストル マイヤーズ スクイブ ホームページ



2. ベースラインのCRP値とAFP値が進行肝細胞癌の1次治療選択に有用な可能性【日本臨床腫瘍学会2025】

ベースラインで $CRP \geq 1\text{mg/dL}$ かつ $AFP \geq 100\text{ng/mL}$ の進行肝細胞癌患者に対して、レンバチニブ単剤療法を受けた患者は、免疫療法を受けた患者に比べて、有意に良好な無増悪生存期間（PFS）を示していたことが分かった。

2025年3月6日から8日に神戸市で開催された第22回日本臨床腫瘍学会学術集会で、京都大学大学院医学研究科消化器内科学の上野真行氏が発表した。



URL: <https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/cancernavi/news/202503/587959.html>

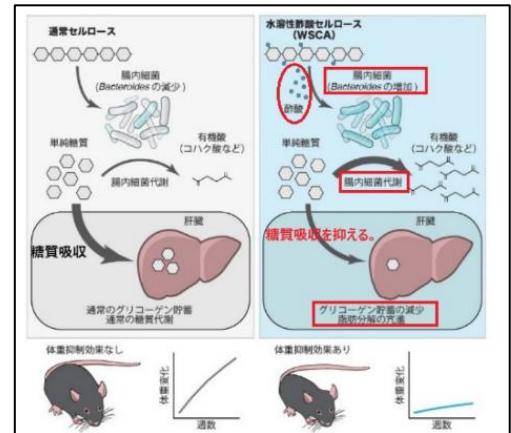
出典：がんナビ

3. 新規プレバイオティクスによる抗肥満作用の発見—酢酸と腸内細菌代謝を介した糖質吸収抑制効果【理化学研究所 プレスリリース】

理化学研究所、ダイセルらの共同研究グループは、消化管内で酢酸を特異的に増加させるセルロース試料である水溶性酢酸セルロース（WSCA）が腸内細菌に作用することで消化管からの糖質吸収を抑え、肥満を改善することを明らかにした。理化学研究所のHPに掲載されています。

プレバイオティクス：消化管内で特定の腸内細菌に働きかけることでヒトに有益な効果をもたらす食品成分。水溶性食物纖維やオリゴ糖などを含む。

URL: <https://www.ims.riken.jp/news/2025/>
出典：理化学研究所



4. ウィルス性肝炎患者等に対する初回精密検査及び定期検査の促進について 【厚生労働省 発出】

厚生労働省は、事務連絡「ウィルス性肝炎患者等に対する初回精密検査及び定期検査の促進について」の周知依頼を各種機関に発出しました。

この中で、C型肝炎ウイルス排除後の定期検査を呼び掛けており、右のようなポスターを配布しています。

この中で「定期検査助成」の案内もしています。

2025年6月

C型肝炎の治療を受けた方へ

**C型肝炎ウイルスを
排除した後も
定期的な検査を
受けることが必要です。**

治療によりウイルスが排除された後でも、肝がんのリスクは残ります。
肝がんの早期発見のために、定期的な検査をご検討ください。

検査の例

- 血液検査：肝臓の炎症やがんマーカー等を調べます。
- 超音波検査：肝がんの発症がないかなど、肝臓の状態を調べます。

※検査の頻度・内容については、肝臓の状態・生活習慣等で異なります。まずは医師にご相談ください。

定期検査を受けるには

- 定期検査を受ける際には、肝疾患専門医療機関や、かかりつけの医療機関にご相談ください。
- 肝疾患専門医療機関は、「肝炎医療ナビゲーションシステム」ホームページから探せます。

詳しくはこちらから→ [肝ナビ 検索](#)

検査費用の助成制度があります

都道府県からの助成により、**自己負担額最大2,000円**（慢性肝炎）または**最大3,000円**（肝硬変・肝がん）で検査を受けることができます。詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。

詳しく知りたい方は、都道府県の肝炎・肝疾患の担当課・係にお尋ねください。

厚生労働省

5. ジーエヌアイグループ：肝線維症治療薬 F351 中国における第3相臨床試験の結果について 2025年5月23日【適時開示情報】)

中国のジーエヌアイグループ（GNI グループ）は 2025 年 5 月 23 日、連結子会社である米 Gyre Therapeutics（ジャイア・セラピューティクス）社が開発中で TGF- β 伝達経路を阻害する F351（ヒドロニドン）が、慢性 B 型肝炎に起因する肝線維症に対する中国での第 3 相臨床試験において主要評価項目を達成したと発表しました。

投与 52 週後に肝線維化ステージが 1 段階以上改善した患者の割合が、プラセボより有意に多かったとされています。日本での導入はいつになるのでしょうか。

URL:

<https://www.nikkei.com/markets/ir/irftp/data/tdnr/tdnetg3/20250523/fc6qxp/140120250523562877.pdf>



6. 胆管がん、膵臓がんでも従来抗がん剤+免疫チェックポイント阻害剤の適用が始めています。【日経メディカル】

日経メディカルの記事「ガイドライン改訂も進む中押さえたい胆道癌・膵癌薬物治療の現在地」の中で、胆管がん、膵臓がんでも従来抗がん剤+免疫チェックポイント阻害剤の適用が始まっていることを報告しています。

胆道癌領域では、進行再発症例に対してゲムシタビン+シスプラチン療法（GC 療法）に、S-1 と免疫チェックポイント阻害薬（ICI）のどちらを上乗せするかを検証するフェーズ 3 試験（YOTSUBA 試験）が進行中なほか、ドライバー遺伝子の同定により新規分子標的薬の開発が期待されているとのことです。

URL: https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/search/cancer/report/202506/58880.html?n_cid=nbpnmo_aped_app-share

出典：日経メディカル

